

機関紙 たいとう に  
皆様の記事をお寄せ下さい!

採用された方に  
500円分クオカードを  
プレゼントします。

# たいとう

東京土建一般労働組合  
台東支部  
〒110-0012 台東区竜泉1-15-2  
Tel:03-3876-1966 Fax:03-3875-5965  
Mail:taitou@tokyo-doken.or.jp  
HP:http://doken-taito.jp  
編集 遠藤 顕寛

## 区は感染対策に充分な留意を

### 仕事・暮らしの支援を訴え

8月26日に台東区経理課へ交渉・申入れを行いました。今年で9年めになるこの交渉に、支部役員2名、書記2名が出席、台東区側からは経理課長と契約担当係長が出席しました。

国交省発布の「新型コロナウイルスガイドライン」では感染予防や三密回避を謳っているが、実際には現場の業者任せになっているのが実状です。台東区に対し発注者として受注者(元請会社)任せにせず、各現場の状況を把握したうえで、予防対策に努めて欲しい点を強調して伝えました。台東区の発注工事にお

### 公契約条例

一方でこの制度が出来るから5年以上が経過し、最低賃金違反以外の改善指示報告がここ数年ないことから



### 台東区担当者との交渉に臨む支部役員

東京土建も推進している建設キャリアアップシステムの導入状況を探るところ、昨年は設置・カード保持者共にゼロ、今年も設置1現場、カード保持1人のみの回答でした。台東区発注工事現場の東浅草小学校・根岸小学校を昨年訪問したところ、実際にはどちらも建設キャリアアップシステムの導入がされており、区は回答と区との誤差が生じています。しかしながら、カード保持者がほとんどおらず、現場では運用されていませんでした。普及促進と実効性を高めるための課題です。

### キャリアアップシステム

事実上形骸化していることは否めません。安定した賃金が確保出来て、若年労働者が建設業を続けたいと思える業界づくりのために、公契約条例の制定が必要であること、さらには週休二日制の実現、を訴えました。さらにはコロナ禍においても労働環境を低下させない仕組みづくりを要望しました。

## リモートでの憲法学習会

### 参加者からの感想

#### 上野浅草橋分会

T・F

9月14日、本部会館で対談形式の学習会が開催されました。出席者は東京大学名誉教授の小森陽一さん、作家(かりん)さん。私たちは、支部会館からリモートでの参加でした。内容は憲法25条、現在のコロナ禍で職を失った生活が困窮している人が増えている状況下でどのような行動ができるのか。ネットカフェや路上生活者も街中では一見普通の人々。生活保護が必要なのに申請には二の足を踏んでしまう、何が妨げになっ

**東京 建設キャリア(CCUS)登録しよう!**

東京土建に加入して3大特典!

- 特典 その① CCUS技能者登録料 12月までの期間限定 **4,900円**が全額キャッシュバック!
- 特典 その② レベル判定申請に必要な資格が数多く取得できる!!
- 特典 その③ 認定登録機関で申請するとCCUSのカード発行が早い!

「東京土建」はCCUSの認定登録機関!

⇒事業者・技能者登録を丁寧にサポートします  
⇒東京土建に加入しているとCCUSの登録で特典が...

「今」がCCUS登録のチャンス!

#### 松が谷分会

Y・S

のか、一人ひとりが考えなければ。

#### 松が谷分会

K・T

主に25条において憲法を活かすことについて、現状の問題点を挙げて講演を聞いた。憲法25条とは「国民は健康で文化的な生活を保障される」と記されている。しかしこのコロナ禍のなか2年近く政府の対策がすべてにおいて後手後手になっている。医療の逼迫、コロナ関連による失業、それによっておこる生活苦。テレビや新聞報道によってそれらを知ることが出来る。特集番組などで知るひとり親家庭の大変さは、信じられないほどの生活苦に追い込まれている。本当に困って自殺にまで追い込まれている人が現実にいる。講演は今現実におきている生活困窮者をどう支えるかという問題提起をしている。この国をどうしように立て直していく



### リモート学習会参加の様子

#### 五重塔

### 「抜け雀」

相州小田原の宿屋に泊まりこんだ大酒のみの客、宿賃を請求されると、一文もないからと衝立に雀を5羽描き、誰にも売らなと去っていく。ところがこの絵の雀が、朝になると飛び立って、しばらくすると衝立におさまる。

この宿屋、誰いうともなく「雀のお宿」と大評判。ある日人品いやしからぬ老人がこの宿に立ち寄ると、この雀を見て、「このままでは羽を休めるところがなく雀は死ぬ」と、この絵に籠を描きそえた。雀がこの籠の中で羽を休めたので、またまたこれが大評判となる。

何年かたって、雀を飼った男が立派になってやってきて、この絵を見るといきなり「不幸の段お許しください」と泣き伏した。聞けば籠の絵を描いたのはこの男の父親だという。

宿屋の主人が「あなたほどの名人、不幸なことはごいませうまい」「いや亭主、親を駕籠かきにした」とは男の弁。

# 力作の応募が続々と スクラッチアートで楽しみました

今、巷でブームの「スクラッチアート」をご存知ですか。黒いスクラッチ面を専用ペンで削ると、キラキラ光るホログラムの線や、美しい色の線が出てきます。削っていくと、カラフルな色やホログラムが浮かびあがり、すべての線を削ると完成するお絵描きの一種です。

今夏、支部女性の会「あさがお」ではお子さんのいる家庭を中心にこのスクラッチアートを配り、コンテストを開催しました。50通近い応募があり、急きよ参加賞の景品も増やしました。作品を送ってくれた方からは、「コロナ禍で外出が制限されている中、親子で楽しめました」「夏休みの宿題を早

く終わらせて、夢中で作っていました」などの感想が寄せられました。みなさんに送っていただいた作品は、東京土建台東支部のYouTubeチャンネル（下記リンク先）で紹介しています。



選考する女性の会役員のみなさん

す。ぜひご覧になってください。



<https://youtu.be/0q3kUpQVdK>

## 本部写真教室に参加して

この頃写真を撮るときはスマホのシャッターを押すだけでした。デジタルカメラの使い方も勉強しておいた方がいいかな。くらの安易な気持ちで、支部のデジタルカメラを借り簡単な操作方法だけを聞いて参加しました。午前中の学習で色々なテクニックを教わりましたが、細かな操作はできません。しかし他の支部からの参加者たちは、交換レンズを持参していたり、自身のデジタルカメラを使いこなしているようでした。シャッタースピードの調節や、絞りの調整、ブレンコを揺らして動く物体を連写していたり、



練習で撮影した一輪のヒガンバナ

わたしはといえば、出題されたテーマを何とか表現しようと必死でした。最終的に参加者全員の作品発表と、作品に対するアドバイスと注意すべき点が指摘されました。わたしはといえば穴があつたら入りたいたいの素人なのがあきらかなのか、うまく持ち上げてもらいました。さすがにプロのカメラマンは、講師の切り口もひと味違うなど感じしました。

松が谷分会 今井彰

## 秋の拡大月間も最終盤へ

秋の拡大月間のこれまでの集約は、左記表の通りです。

東京土建国保料の減免や、国・東京都の給付金、支援制度等の相談が多く寄せられています。まだまだ知らな

い仲間もいるかもしれません。訪問し仲間の声を聞き取りましょう。全組合員との対話を目標に掲げ、最後まで粘り強く行動していきましょう。観劇イベント、健診案内等できることはあります。合言葉は「困ったら組合へ」です。

分会名	目標	成果	達成率
清川	9	1	11%
浅草中央	5	5	100%
下谷	3	1	33%
谷中	3	1	33%
松が谷	6	1	16%
上野浅草橋	5	2	40%
直属・事業所	23	10	43%
合計	54	21	38%
青年部	4	2	50%
ライトシルバー	10	2	20%
女性の会	4	1	25%



## 三途の川から 戻った少年

それはわたしが5歳のとき、昭和24年春のことでした。父は大工仕事、母は幼稚園の園準備でパートへ買い物に出かけていました。友達と道路にチョークで絵を描いて遊んで

いた時、1台の車が走ってきて友達「危ない」と叫びました。地面をみていたわたしが顔をあげた瞬間、車にぶつかりその場に倒れてしまいました。運転していたひとはすぐに気づき、その車で上野病院に運んでくれました。大出血で洗面器の半分くらいいたまるほどだったと聞きました。3日間意識不明の状態になり、その間わたしは意味不明なことを言っていたらしく、医師から

は「助かってはバカになる」と言われたそうです。しかし奇跡が起こりました。川があり、橋がありその向こう側には人が立っていました。その人がこっちへ来るように呼ぶのです。わたしはそれを断りました。その後我に返り、助かったのです。入院して3日目の意識不明のなか、夢でみた体験です。

松が谷分会  
浅田英夫

## 【台東支部よりお知らせ】

11月14日開催の「支部集団健診」の締切りが迫っています

申し込みは10月25日までに支部へ連絡を

9月1日から10月31日までの秋の拡大月間中、東京土建の広報を目的として、支部の宣伝カーで区内を回っています。車載スピーカーを使うた音声による広報・宣伝です。マイクでしゃべるわけではなく、録音された音源を流す形のため気分的には楽です。昼休みのドライブがてらと言ったところですが、台東区は23区内で面積が一番狭いのですが、

走ってみると案外広いものです。そして思いのほか建築現場が多いのです。広い通り沿いはひろい道路に面したところに

も宣伝効果があるのかな、とも思える一瞬です。

この宣伝行動は10月末まで予定をしています。運転手と同乗者2名で1組、月曜から金曜までのお昼時間のお昼です。参加希望者は支部に連絡をもらえれば、空きがあるかも知れません。さらには新たな台東区を発見できるチャンスともいえそうです。

松が谷分会 杉本良信

## ランチタイム宣伝カー同乗記



建設現場周辺で訴える宣伝カー